

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271201848		
法人名	有限会社カムアクロス		
事業所名	グループホームしいえす常盤平		
所在地	千葉県松戸市常盤平3-12-3		
自己評価作成日	平成23年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com.kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com.kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104
訪問調査日	平成 24 年 1 月 21 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

スタッフ一同日々専門性の高い学習を重ね実践に反映させていることで、安全で安心できる生活を送る事ができています。又一人ひとりの出来る力が発揮され張りのある楽しい生活の場となるよう利用者の皆様とスタッフが一体となり作品や特技を披露できるイベントを企画し、発表や展示の喜びから次の意欲へと繋がってくる実感を味わうことができる施設です。又食事提供に於いても栄養・盛り付け・視覚の面で楽しみがある食事作り配慮し、支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

しいえす常盤平は、食事の時間と入浴は事業所の計画に沿って行すが、あとはホールで貼り絵を制作したり、自室でゆったりと過ごす等、職員が見守る中で利用者が自由に“ありのまま”でいきいきとした生活が送れるよう支援している。  
運営推進会議は地域包括支援センター、介護相談員、家族、ボランティア等の参加で2ヶ月毎に開催し、ヒヤリハットを含めた状況報告や行事の紹介の他、消防署の参加を得て、模擬避難訓練を行う等、地域の人から助言を得る機会としている。  
地域住民や家族を招いての演奏会ではモンゴルの馬頭琴と利用者が奏でるピアノの共演で参加者を和ませ楽しませている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありのままがいいんだよ」の理念を共有しつつ、よりよい介護ができるよう、居心地の良いホームであるように管理者・職員一同実践し支援している。	食事の時間と入浴は事業所の計画に沿って行うが、あとはホールで貼り絵を制作したり、自室でゆったりと過ごす等、職員が見守る中で利用者が自由に“ありのまま”でいきいきとした生活が送れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	行事予定を組み、家族・近隣住民参加の声掛け電話連絡等を行っている。町内の理容室を利用したり地域スーパーを利用しながら地域への参加をしている。	演奏会、敬老会、クリスマス会開催時に近隣住民に参加を呼び掛けているが、日中不在の住環境であり期待する成果は現れない。しかし、ボランティアや理容室等を通じて地域との繋がりを深める働きかけを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の相談員、地域包括センターのご協力、ご指導を受け又ご家族の協力を得ながら地域に溶け込めるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催を行い、実践状況の報告やその時々テーマに沿って問題を提起し参考となるアドバイスを受け実践し評価を行いながらサービスを行っている。	地域包括、介護相談員、家族、ボランティア等の参加で2ヶ月毎に開催し、ヒヤリハットを含めた状況報告や行事の紹介の他、消防署の参加を得て、模擬避難訓練を行う等、地域の人から助言を得る機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護給付課、地域包括支援センターとの連絡を取り、利用者の生活がより良いものとなるようご指導を頂けるよう協力関係を築いている。	スプリンクラーの設置や日々の事業所の運営に関して相談や情報提供を行い、市の指導・助言を得ている。また介護給付課に場所を提供し、介護保険の出前教室を行う等、市と協力関係を築く取組を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「ありのままがいいんだよ」の理念の下原則として施錠はしない事するため玄関のドアにパイプチャイムを取りつけている。又危険の予測がある場合、可能な限り付き添い見守る事を職員全員に周知し実践に取り組んでいる。	身体拘束、言葉による抑制を行ってはならないことが周知され、職員は利用者が不穏にならないよう支援し、可能な限り見守りを実践している。また外出者については寛げる中庭の方へ誘導するか、利用者の意のままに職員が付き添うことを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員の定期的研修又外部で受けた研修の発表の場を設け虐待に関してはいかなる場合でも見逃すことの無いよう全職員が意識し実践するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修に於いて専門職の講義を受けたり、管理者として権利擁護に関する研修を受け、学んだことを活用できるよう施設内研修を行い全職員に周知する機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時ケアプラン作成において入居者様、ご家族様に分かりやすい説明をし不安、疑問がないか確認し理解納得を得た上で契約をして頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様には常にコミュニケーションのとれやすい環境をつくっている。ご意見、要望があれば何時でもお受けできるように面会記録書を設け自由に申し出られるようにしている。又話しやすい環境を作るようにしている。	事業所は日々利用者本人の意見や思いを聴き運営に反映している。またケアマネ及び管理者は個別の面談や運営推進会議のほか自由記載ができる面会記録書を用い家族の意見や要望を聴き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務を実践していく中で、疑問や改善の案がある時には朝礼、申し送りノートに上げその都度検討・処理し反映できるようにしている。	毎日のミーティングや週1回行われる研修会での支援のあり方等に関する職員の意見や提案は記録され、職員全員へ周知されるとともに、経営者にも回付され、適時、適切に運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部、外部研修を受ける機会を持ち各自が向上し、人事評価にも反映させやりがいをもち働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、社内研修、外部研修と各人にあつた研修を提案し資格者及び経験者が講師となって内部指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は系列の施設との勉強会、研修を通して交流を深めお互いの良い活動をサービスに反映できるように取り組んでいる。又松戸市GH協会との連携により他施設見学を行う予定になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設生活が始まってから不安の様子や困っている様子がないか些細な表情からも汲み取り声掛け傾聴の関わりを取りながら安心して生活を楽しんで頂けるよう各職員の特徴を生かし支援、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時は本人の生活状況や身体状況を報告し安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供と共に施設での暮らしによる環境の変化に合わせ、内容を変更し他のサービスの利用にも対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のADLに合わせ出来る事を一緒に行い又出来る力が発揮されるよう見守り支援する関わりの努力を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から今までの生活状況や習慣を聞き取り、相談をしながらご本人を支えています。又イベント等企画しお誘いし共に参加できる支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は楽しみにされています。遠方のご家族や体調が悪くて来られないご家族には、電話やお手紙に写真を添えるなど近況をお伝えする支援をしています。	近くの馴染みの理容室で散髪をしたり、西友で買物をする等、地域との接点を継続する支援をしている。また遠方の家族にも、ホールの電話で通話の仲立ちをしたり、イベントの案内をするなど訪問を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士楽しく過ごせるよう、利用者一人ひとりを把握しコミュニケーションがスムーズに図れるように職員がつなぎ役として話題を提供し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談や支援をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、職業歴を顧みてその人らしい生活の在り方の検討を行い話題の提供、共感できるように会話の傾聴の機会を設けている。又ボランティアによる傾聴も設けている。	外出の際、車の中など日々の関わりの中で利用者個々の希望や意向の把握に努めている。自らの発語が困難な利用者には、声掛け傾聴に努め、また些細な表情やしぐさをも見逃さないよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行為や行動がその人にとっての経験のどこから来たものかを考慮しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶の声掛けにより、その人の心身の状態を把握して1日が快適に過ごせる支援ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いの中から現状と以前の生活との繋がりや知り得なかった新たな事実が判明することもあり、介護に役立っている。	介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返しながら設定期間に見直しを行っている。利用者の状況変化には、家族にも相談しながら日々の会議で検討し、情報の共有を基に改善に向けたケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月2回集中カンファレンスを行いケアの共有化を図り実践しながら記録、又毎朝朝礼にてケアの見直しを行い計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活リハビリについては主治医と相談して、事故のないよう最善を尽くしている。又本人、家族の希望により外部のマッサージの利用など社会資源の活用し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地の利を得て施設前の桜並木で恒例の桜祭りに毎年参加、賑わいの中に溶け込んでいる。近隣の公園等で散歩を楽しむ事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受け、状況によってはご家族に連絡報告を行っている。緊急時には連携する総合病院に搬送できるシステムも出来ている。	内科・歯科に於いては、全利用者が近隣の協力医をかかりつけ医としている。依頼により往診も可能であり、他科への紹介や、訪問看護師の指示など、あらゆる症状に対応出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	掛かり付け医の看護師さんに心身の状況の変化を告げ相談を行い、主治医との連携に配慮している。相談内容は業務日誌に記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、定期的に訪問し状況の把握に努め退院が間近であるかどうか、リハビリの状況等の情報を得、退院に備えて病院の主治医との関係を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネージャーを中心に日頃から病状の把握に努め家族に連絡の上、その意向を把握して主治医に相談出来る事、出来ない事を家族にも伝え訪問看護ステーションと関係を作っている。	終末期については、協力医、訪問看護師、職員、家族の役割を決め、充分話し合い、家族の同意を得ている。利用者・家族の希望で看取りを行うが、利用者の様態により医療が必要な場合は入院の選択をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え初期対応等を研修、その他周知徹底し、必要に応じ主治医との連携をとりながら支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を予測し模擬訓練を行っている。又研修等で実践力を身に付けている。緊急連絡網等の体制を徹底し支援している。	昨年11月にスプリンクラーと消防署直通報知器を設置した。夜間を想定した避難訓練や通報・連絡訓練を行い、緊急時には職員が駆けつけることとしている。またボランティアの応援が期待出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症への理解、ケアのあり方について、研修会を重ね一人ひとりの人格を尊重し丁寧な関わりを心がける支援を努力している。	接遇の心得については、事業所内で徹底した研修を行っている。援助が必要な時も、利用者の気持ちを尊重し誇りを傷つけたりしないよう、さりげない言葉掛けでケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	丁寧な声かけをすることで本人の思いや希望を聞きだし、時間をかけてその思いが実現できるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状態を観察、把握した上で散歩や体操、入浴等を実施している。個々に趣味を楽しめる備品を揃え提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントや季節ごとの行事の参加、外出時の着替え等おしゃれ着を自由に選んで頂いたり、選択の手伝いを行う事から季節の変化も感じて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が目でも楽しめるように料理の盛り付けなどの工夫をしている。配膳や後片付けを職員と一緒にやっている。	献立は偏らないよう、職員からもメニューの提案を受け、常に新鮮な材料購入を心掛け、食事の提供をしている。利用者の誕生日は赤飯、月毎の誕生会はケーキやちらし寿司などと利用者を喜ばせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調、口腔状態に合わせた食事形態の提供、水分確保に於いては確保の困難な利用者様には好まれる味の飲み物など提供している。夏場は2000cc 冬場は1200ccを目安とし記録、管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に応じ毎食後本人ができない部分の介助を行いながら、口腔内の清潔を保持している。 月2回大学病院の歯科医往診時に相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員同士把握・共有しながらトイレの誘導・又は声掛けを行い、失敗を減らし快適に過ごせるよう支援している。	排泄記録を基に、また行動や表情から排泄誘導している。夜間は利用者の状態によりベッド上での排泄介助もあるが、居室内にポータブルトイレを設置するなど、出来るだけトイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らず食物の工夫や水分摂取量等に配慮し、軽い運動への働きかけを支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調を考慮し、個々にあった支援をしている。体調によっては清拭や足浴を行い支援している。	入浴は、個浴であることからプライバシーは守られ、利用者にとりリラックスタイムとなり楽しみの一つとなっている。また寒い時期には、毎日足浴を行い体を温めることで、安眠できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状況に合わせ、日中は昼寝又天気の良い日は日光浴等支援し、夜間は安心して眠れるよう一人ひとりの見守りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の理解をし、支援している。投薬時は間違えのないようチェック管理にて確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳、下膳、洗濯物たたみ等興味ある手伝いを自身で選んで頂き日課として生活のリズムになっている。又趣味に集中して過されたり、庭の植木の手入れを仕事として張りのある生活を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣が商店街なので散歩しながらスタッフの付き添いで買い物に出かけたり、面会されたご家族も外食に心がけて下さっている。	天気の良い日は、近隣への散歩、また庭で日向ぼっこなど毎日外気浴を行っている。ドライブ外出に於いては、買い物や21世紀の森のホールでの観劇会、また紅葉狩りや桜の花見など季節毎にも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ、使えるように支援している。個々の状態や希望によっては職員が対応、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、関心のある方と連絡を取り支援している。電話や手紙等でご本人に代わって近況をお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間において、利用者に危険がないよう配慮し生活感や季節感が感じられる空間を支援している。	ホールでの企画の一つとして、馬頭琴の演奏会が催されている。奏者は利用者の年齢に合わせた曲を選び、また利用者のピアノの伴奏もあつた。廊下には利用者の貼り絵が並び、見事な出来栄えに家族は驚き、感嘆の声があつた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状態に配慮し、好きな作業や趣味を行ったりご自分の居室で過されたり自由な時間を支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望により、使い慣れたものを活用し居心地よく暮らせるよう支援している。	自宅の延長で生活ができる様、使い慣れた家具等の持ち込みを依頼し、相談の上でレイアウトを決めている。また必要な物は家族と相談しながら揃えている。居室の清掃は利用者と職員が共に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事を観察し、安全な環境を提供し見守りを行いながら自立した生活が送れるよう支援している。		

**目標達成計画**

(今回の評価を元に次年度への目標をご記入下さい。今年度評価書と共に県およびWAMNETに掲載) 作成日: 平成 24 年 4 月 2

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準をして取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み
1	20	施設生活で家族や知人との触れ合いが少なくなっている。色々な事情で来られない方もいる。	お手紙などで近況をお知らせし支援して行く。	職員が何人かを担当する。毎日触れている職員だから細やかなお知らせ来る。
2				
3				
4				
5				

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。